

土地のきまりの変化と天平文化

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

奈良時代の中ごろ、土地のきまりはどう変わり、どんな文化が栄えたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 ゆらぐ土地のきまり

土地のきまりの変化

こんでんえいねんしざいほう
墾田永年私財法

743年。新しく開墾した土地を、いつまでも私有してよいとした法。

しょうえん
荘園

貴族や寺社の私有地。のちに各地に広がる。

人口が増えると、人々に与える口分田が足りなくなった。逃げ出す人が出て、荒れてしまう田もあった。そこで国は、新しく田を開墾させるために、723年に開墾した土地を3代にかぎって私有することを認め(三世一身法)、さらに743年には墾田永年私財法を出して、開墾した土地をいつまでも私有してよいことにした。

すると、貴族や大きな寺院・神社は、周りの農民などを使って開墾を進め、私有地を広げていった。これらの私有地は、のちに荘園とよばれるようになる。土地と人々をすべて国のものとして治めるしくみは、少しずつづれ始めた。



2 仏教の力と天平文化

文化

しょうむ
聖武天皇

国ごとに国分寺・国分尼寺、都に東大寺と大仏をつくらせた。

ぎょうき
行基

民衆に仏教を広め、橋や用水路をつくった僧。大仏づくりにも協力した。

がんじん
鑑真

何度も渡航に失敗し、目が見えなくなりましたが来日した唐の僧。唐招提寺を開いた。

しょうそういん
正倉院

聖武天皇の愛用品などを納めた東大寺の倉。

8世紀の中ごろ、都では伝染病が広がり、ききんや貴族の反乱も起こって社会が不安定になった。聖武天皇は、仏教の力で国を守ろうと考え、国ごとに国分寺と国分尼寺を、都には東大寺を建て、金銅の大仏をつくらせた。大仏づくりには、民衆に仏教を広めていた僧の行基も協力し、752年に完成を祝う儀式が行われた。

このころ、朝廷はたびたび遣唐使を送り、唐の制度や文化を取り入れた。唐からは僧の鑑真が来日し、正しい仏教の教えを伝えた。こうして栄えた、唐の影響を強く受けた国際色ゆたかな文化を、聖武天皇のころの年号から天平文化という。東大寺の正倉院には、シルクロードを通して伝わった、西アジアやインドの影響を受けた品も納められている。

また、国のおこりや天皇の由来を記した歴史書の古事記(712年)と日本書紀(720年)、地方の産物や伝説を記した風土記がまとめられた。天皇や貴族から防人や農民までの和歌を集めた万葉集もつくられた。

問いへの答え

人口が増えて口分田が足りなくなると、国は開墾した土地の私有を認め、743年の墾田永年私財法でいつまでも私有してよいことにした。貴族や寺社は私有地を広げ、土地と人々を国のものとするしくみはくずれ始めた。

一方、聖武天皇は仏教の力で国を守ろうとして国分寺や東大寺の大仏をつくらせ、遣唐使が伝えた唐の文化の影響を受けた、国際色ゆたかな天平文化が栄えた。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

